

「タンポポ調査」のご案内

陽ざしが暖かくなり、春を間近に感じるようになりました。そろそろタンポポの花の季節ですね。

春の調査は、フィールドレポーターではお馴染みのタンポポ調査を行います。西日本の17府県が参加する「タンポポ調査・西日本2020」の本調査の年にあたり、これに協力する形で、フィールドレポーターもタンポポを調べることにしました。タンポポは野草で、雑草とみなされれば刈られる存在ですが、春を代表する花の一つとして親しまれています。お住いの近くにも、黄色や白色のタンポポがたくさん咲いていると思います。色々なタンポポを見つけてみませんか。

滋賀県には8種(しゅ)のタンポポが生育しています(別紙資料を参照)。県内に広く分布する種もあれば、分布範囲の狭い種もあるようです。2015年の調査では、カンサイタンポポは北に行くにつれて少なくなり、代わってセイタカタンポポが多くなることがわかりました。また、キビシロタンポポは、甲賀市を中心に分布していましたが、近江八幡市でもポツポツと見つかりました。

今回の調査は、各種の分布をより明らかにすることを目的としています。特に、これまで調査の空白地域になりやすかった湖東から湖北にかけての地域における黄花在来種(カンサイタンポポ、トウカイトンポポ、セイタカタンポポ、ケンサキタンポポ)の分布が注目されます。また、トウカイトンポポの花の形態的変異、キビシロタンポポの形態的・生態的特徴についての情報が集まることを願っています。

タンポポの在来種と外来種の間には雑種が生じることが1990年に分かり、その後の研究で、雑種が日本各地に広がっていることが分かってきました。在来種そっくりの姿をした雑種がある一方で、外来種そっくりの姿をした雑種もあるそうです。雑種の識別には遺伝子分析が必要なため、現在では、花の形態だけで種を見分けるのが難しい状況にあります。それでも、滋賀県に生育する黄花在来種の4種のうちの3種は、花粉の大きさが均一かバラバラかを顕微鏡観察することで、雑種かどうかの識別ができます。

他の種についても、花やタネのサンプルは種の見分けに重要です。観察した株にタネができていない時は無くても構いませんが、花は必ず送ってください。よろしく願いいたします。皆さんの調査票の記録とサンプルの花粉の状態などから種を判断し、その結果を後日お知らせいたします。

調査方法は別紙の「タンポポ調査の調べ方」に書いていますのでご覧ください。なお、調査地点は自由に選んでいただいて結構です(どこでも大丈夫)。興味のある方は、違う場所・違う環境の何箇所かを調べると、環境と生育種の関係が見えてきて面白いかも知れません。

今回は、調査目的との関連で、湖東から湖北地域にお住まいの方のお力を是非お貸しください。また、この方面に出かけられる方がありましたら、ご協力をよろしくお願いいたします。

調査期間は2020年3月1日～5月31日です。



参考文献

- 伊藤明・山口陽子・高田こころ・名波哲(2015). 西日本における雑種タンポポの分布状況と5年間の変化 タンポポ調査・西日本2015実行委員会編『タンポポ調査・西日本2015調査報告書』
- 森田竜義・芝池博幸(2012). 雑種タンポポの研究の現在 森田竜義編著『帰化植物の自然史』北海道大学出版会